

令和元年12月 5日

報道関係者 各位

尼崎市

公益財団法人尼崎市文化振興財団

尼崎市 第7回 近松賞 受賞作品

「馬留徳三郎の一日」 (作=高山さなえ 演出=平田オリザ) 尼崎公演

記者発表会のご案内

- 日 時/令和元年12月12日(木)10:30~11:00(受付10:20から)
- 会 場/尼崎市総合文化センター7階会議室(尼崎市昭和通2丁目7番16号)

尼崎市 第7回近松賞 受賞作品『馬留徳三郎の一日』尼崎公演上演についての記者発表会を12月12日(木)に開催いたします。

当日は、近松賞選考委員でもあり、本公演の演出担当、青年団主宰の平田オリザ氏が出席し、上演に対する意気込み、抱負等を語っていただく予定です。

ご多忙の折とは存じますが、万障繰り合わせのうえ、ご出席賜りますようよろしくお願い申し上げます。

≪記者発表会 概要≫

- 日 時/令和元年12月12日(木)10:30~11:00(受付10:20から)
- 会 場/尼崎市総合文化センター7階会議室(尼崎市昭和通2丁目7番16号)
- 出席者/平田オリザ氏(劇作家・演出家・青年団主宰)
- 内 容/別添資料参照

お問合せ先:

公益財団法人尼崎市文化振興財団 事業課 事業担当
担当 長谷 TEL 06-6487-0910

尼崎市 総合政策局 政策部 文化振興担当
担当 藤平 TEL 06-6489-6385

尼崎市 第7回 近松賞 受賞作品

「馬留徳三郎の一日」

作＝高山さなえ 演出＝平田オリザ

1. 趣旨

第7回近松賞（正式名 近松門左衛門賞）の受賞作品『馬留徳三郎の一日』を、平田オリザ氏の演出で「青年団」により上演します。

近松賞は、平成12年に創設され、国内でも有数の戯曲賞として定着しています。日本が世界に誇る劇作家・近松門左衛門の功績を顕彰するとともに、次代の演劇界を担う優れた劇作家を世に紹介し、新たな演劇作品の発掘、劇作家の育成を目的としています。

2. 公演の概要

【公演名】 尼崎市第7回「近松賞」受賞作品『馬留徳三郎の一日』 尼崎公演
作：高山さなえ 演出：平田オリザ

【と き】 2020年3月 26日（木）19:00★
27日（金）19:00★
28日（土）14:00／18:00
29日（日）14:00

それぞれ開演40分前より受付開始、開演の20分前開場

★の回終演後、平田オリザ氏によるポストパフォーマンス
トークを開催いたします

【ところ】 あましんアルカイックホール・オクト
〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2丁目7-16 [TEL]06-6487-0910

【出演者】 山内健司
山村崇子
能島瑞穂
海津 忠
折原アキラ
田村勝彦 *（文学座）
羽場睦子 *
猪股俊明 *

*＝客演

【スタッフ】 舞台美術：杉山 至
照明：三嶋聖子
音響：櫻内憧海
舞台監督：中西隆雄
衣裳：正金 彩
衣裳補佐：原田つむぎ
フライヤーデザイン：京（central p.p.）
制作：有上麻衣

【あらすじ】

長野県の山深い田舎の集落。馬留徳三郎と妻のミネは二人でここに住んでいた。近所の認知症の年寄りや、介護施設から逃げて来る老人達が馬留家に集まり、仲良く助け合いながら生活していた。

夏の高校野球が始まった暑い日。徳三郎の息子、雅文から久しぶりに電話がかかって来た。仕事でトラブルがあり、部下が間もなく馬留家に訪れると言う。

徳三郎が出かけている中、部下の蔵本の来訪にミネは喜んでいた。雅文の話が聞けるからだ。しかし蔵本は、ミネが出掛けた後、近所の老人から、雅文は死んでもういないと聞かされた。出かけていた徳三郎と話せた蔵本だったが、雅文は死んでいるのか、生きているのか、本当のところはよく分からない。ミネからは、お金を渡す代わりに息子を覚えていて欲しいと懇願された。若年性アルツハイマーを患っている息子に手を焼いている近所の老人の車に、蔵本は乗せてもらい、お金と雅文のアルバムを持って馬留家を出た。

数時間後、再び馬留家の電話が鳴る。ミネは、雅文だと思い話しているが様子がおかしい。

徳三郎が代わるとそれは警察からの電話だった。蔵本が自首し、自ら命を絶ったとの連絡だった。

徳三郎とミネは二人で蔵本に会いに行く。まるで、本当の息子に会いに行くかのように――。

【チケット料金】 前売・当日：一般 3,500円
大学・専門学校生 2,500円
高校生以下 1,500円

*全席自由席・整理番号付き

*未就学児童はご入場いただけません。

*大学・専門学校生、高校生以下の方は、ご観劇
当日、受付にて学籍を確認できる証明書をご提示
ください。

【チケット発売日】2020年1月26日（日）

*チケット取り扱い

尼崎市総合文化センター プレイガイド

[TEL]06-6487-0810 (9:00~19:00)

[WEB]<http://www.archaic.or.jp/ticket/online.html>

ローソンチケット

[TEL]0570-000-407 (オペレーター予約10:00~20:00 Lコード不要)

[WEB]<http://l-tike.com/>

[直接購入]ローソン・ミニストップ店内Loppi

演劇最強論-ing

[WEB]<http://www.engekisaikyoron.net>

e+ (イープラス)

[WEB]<http://eplus.jp>

[直接購入]ファミリーマート店内Famiポート

【主催】尼崎市、公益財団法人尼崎市文化振興財団

【企画制作】青年団、有限会社アゴラ企画、こまばアゴラ劇場

【助成】令和元年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

【お問合せ先】公益財団法人尼崎市文化振興財団 事業課 事業担当

担当 長谷 TEL 06-6487-0910

尼崎市 総合政策局 政策部 文化振興担当

担当 藤平 TEL 06-6489-6385

3. プロフィール

作：高山さなえ



1977年 長野県生まれ。信州大学人文学部非言語コミュニケーションコース（現・芸術コミュニケーションコース）卒業。2001年青年団・演出部入団。以降、若手自主企画にて劇作家・演出家として活動。2003年青年団リンク高山植物園旗揚げ。作・演出を担当。2010年母校である信州大学人文学部芸術コミュニケーションコースにて非常勤講師を務める。2018年に第7回近松門左衛門賞を受賞。

演出：平田オリザ



©青木 司

1962年東京都生まれ。劇作家、演出家。こまばアゴラ劇場芸術総監督、劇団「青年団」主宰。城崎国際アートセンター芸術監督、大阪大学COデザインセンター特任教授、東京藝術大学 COI 研究推進機構特任教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐。1982年に劇団「青年団」結成。2021年4月開学予定の兵庫県立の国際観光芸術専門職大学（仮称・開学設置構想中）学長候補。

劇団プロフィール：青年団（せいねんだん）

平田オリザを中心に1983年に結成。以来、こまばアゴラ劇場を拠点とし、平田オリザが提唱した「現代口語演劇理論」を通じて新しい演劇様式を追求し、1990年代以降の演劇界に強い影響を与え続けている。

また、海外公演や、海外の演出家を招いて行われるプロジェクトなど、国際交流事業もさかんに行っている。

「ときには聞き取れないような小さい声でしゃべる」「複数の会話が同時に進行する」「役者が観客に背を向けてしゃべる」など特徴的な演劇様式は、私たちが普段使っている日本語と日本人の生活様式に目を向け、新鮮で緻密な劇空間を再構成していこうという「現代口語演劇理論」に基づいており、近年はその活動を海外に広げ、毎年のように海外ツアーを行っている。特にフランスでは、平田オリザ戯曲に対する評価の高まりと共に、青年団の演劇様式と、粒の揃った俳優の演技力が高い注目を集めています。